

平成24年3月26日（月）
 愛知県健康福祉部健康担当局健康対策課
 健康長寿あいち推進グループ
 担当 稲葉・戸田
 内線 3158、3157
 ダイヤルイン 052-954-6269

「健康日本21あいち計画」の最終評価結果について

～ 「健やか親子」「歯の健康」「身体活動・運動」「たばこ」分野が改善 ～

本県では、平成13年3月に「すべての県民が健やかで、心豊かに生活できる活力ある長寿あいちの実現」を目指し、「健康日本21あいち計画」を策定（計画期間：平成13～24年度）し、県民や県、市町村、健康関連団体等が連携し、様々な健康づくりの取組みを進めてまいりました。

この計画の目標達成状況を評価するために、「愛知県生活習慣病対策協議会 健康日本21あいち計画評価推進部会」（平成24年2月2日最終、計4回開催。部会長：富永祐民^{とみながすけたみ}愛知県がんセンター名誉総長）を開催し、「健康日本21あいち計画」の最終評価を行いました。

今後、この最終評価結果を生かし、有識者等の御意見を伺いながら、平成24年度中に次期プランを策定（計画予定期間：平成25～34年度）する予定です。

1 全体の目標達成状況

本計画は、生活習慣病の予防を目的に10分野173指標に分けて設定し、取組みを行ってまいりましたが、目標の達成状況については表1のとおりでした。特に改善が顕著となった分野は、「健やか親子」次いで「歯の健康」「身体活動・運動」「たばこ」の4分野となった一方、日常生活の行動変容を促すための目標については、一部施策や取組みが十分浸透せず、県民の生活習慣の改善にいたらなかったため、「休養・こころの健康づくり」「アルコール」の2分野では悪化が目立ち、今後の課題となりました。

表1 健康日本21あいち計画の目標達成状況

判定区分	指標数 <> 割合	分野別の判定結果									
		栄養・食生活	身体活動・運動	休養・こころの健康づくり	たばこ	アルコール	歯の健康	糖尿病	循環器疾患	がん	健やか親子
A (達成・概ね達成)	38指標 <22.0%>	3	3	0	4	0	4	3	7	1	14
B	B+ (改善)	5	6	1	5	1	4	4	8	5	9
	B- (やや改善)	1	4	2	10	0	4	1	10	10	7
C (変わらない)	25指標 <14.4%>	5	1	2	7	2	1	3	8	12	2
D (悪化)	37指標 <21.4%>	8	3	7	1	3	2	7	10	10	2
E (判定不能)	15指標 <8.7%>	3	0	0	0	1	0	7	3	0	1
合計	173指標 <100%>	25	17	12	27	7	15	25	46	38	35
A+B(達成+改善)率		36.0%	76.5%	25.0%	70.4%	14.3%	80.0%	32.0%	54.3%	42.1%	85.7%
D(悪化)率		32.0%	17.6%	58.3%	3.7%	42.9%	13.3%	28.0%	21.7%	26.3%	5.7%

* 分野別の判定結果の指標数は、分野別に共通する数（再掲分）を含む。（再掲74指標）

* 表中の網掛けは、「改善」が顕著であった4分野と「悪化」が目立った2分野を強調。

2 各分野の主な結果

《栄養・食生活分野 25 指標》

9 指標(36.0%)が改善、8 指標(32%)が悪化し、十分な改善がみられない分野となりました。県民の食行動を変容するための環境整備は着実に進んだものの、県民の食生活の改善には十分至らない結果となりました。

最も達成度の高かった指標	目標設定時	直近値	目標値
朝食を欠食する人の割合－男性 30 歳代	19.4%	→ 14.8%	15%以下
最も悪化が顕著な指標			
カルシウムの 1 日当たりの平均摂取量 －緑黄色野菜	109 g	→ 92.4 g	120g 以上

* カルシウムの摂取量は、牛乳・乳製品、豆類ともに摂取量が減少した。

《身体活動・運動分野 17 指標》

13 指標(76.5%)が改善、3 指標(17.6%)が悪化し、改善が進んだ分野となりました。高齢者の身体活動は改善、運動習慣者の増加が図られた反面、1 日の歩数が減少しました。運動以外の生活活動量の減少が考えられます。

最も達成度の高かった指標	目標設定時	直近値	目標値
健康の道（コース）	96 コース	→ 515 コース	229 コース
最も悪化が顕著な指標			
1 日の歩数－女性	8,421 歩	→ 6,659 歩	8,700 歩以上

* 歩行は、身体活動量を増やす具体的な方法であるが減少した。

《休養・こころの健康づくり分野 12 指標》

3 指標(25.0%)が改善、7 指標(58.3%)が悪化し、悪化が目立った分野となりました。自殺者数は、10 年間横ばい、ストレスを感じる人は大きく増加しました。様々な取組みを行ったものの、行動変容に働きかけるには、不十分な結果となりました。

最も悪化が顕著な指標	目標設定時	直近値	目標値
ストレスを感じた人の割合－勤め人	48.7%	→ 79.8%	43%以下

* ストレスを感じた人の割合が、働き盛りの「勤め人」で悪化した。

《たばこ分野 27 指標》

19 指標(70.4%)が改善、1 指標(3.7%)が悪化し、改善が進んだ分野となりました。20 代、30 代の男性の喫煙率は改善、一方 20 歳代女性は悪化しました。健康増進法により分煙化など受動喫煙防止対策は大きく改善がみられました。

最も達成度の高かった指標	目標設定時	直近値	目標値
受動喫煙防止対策実施認定施設の増加	1,661 施設	→ 6,017 施設	5,820 施設以上
最も悪化が顕著な指標			
20 歳代女性の喫煙率	15.7%	→ 17.5%	7.8%以下

* 若い女性の喫煙率の悪化が目立った。

《アルコール分野 7 指標》

1 指標(14.3%)が改善、3 指標(42.9%)が悪化し、悪化が目立った分野となりました。多量に飲酒する人の割合が増加、節度ある適度な飲酒を理解する人の割合に変化がみられず啓発が不十分であったと思われます。

最も悪化が顕著な指標	目標設定時	直近値	目標値
多量に飲酒する人の割合	男 4.6%	→ 男 4.1%	男 3.6%以下
	女 0.8%	→ 女 9.4%	女 0.6%以下

* 特に女性の多量飲酒者が大きく悪化した。

◀歯の健康分野 15 指標▶

12 指標 (80.0%) が改善、2 指標 (13.3%) が悪化し、改善が進んだ分野となりました。

多くの項目で改善しました。乳幼児期からのむし歯予防、高齢者の歯の喪失予防など、各年代で様々な対策が進んだ結果となりました。

最も達成度の高かった指標	目標設定時	直近値	目標値
1 人平均むし歯数 12 歳	2.7 本	→ 0.95 本	1 本以下

最も悪化が顕著な指標

進行した歯周炎を有する人—40 歳	21.0%	→ 27.7%	10%以下
* 歯を抜かない歯科医療の浸透により、結果として歯周炎を持つ県民が増加した。			

◀糖尿病分野 25 指標▶

8 指標 (32.0%) が改善、7 指標 (28.0%) が悪化し、十分な改善がみられない分野となりました。県内の糖尿病有病者は推計で 47 万 5 千人と目標の抑制は図られたものの、糖尿病腎症による透析導入者数は毎年増加しています。

最も達成度の高かった指標	目標設定時	直近値	目標値
糖尿病有病者数〔推計〕	365,000 人	→ 475,571 人	50 万人以下

最も悪化が顕著な指標

糖尿病腎症による新規透析導入者数	451 人	→ 671 人	600 人以下
------------------	-------	---------	---------

◀循環器疾患分野 46 指標▶

25 指標 (54.3%) が改善、10 指標 (21.7%) が悪化し、十分な改善がみられない分野となりました。循環器疾患対策の評価として重要である、脳血管疾患、心疾患の年齢調整死亡率は減少しました。

最も達成度の高かった指標	目標設定時	直近値	目標値
年齢調整死亡率—脳血管疾患〔人口 10 万対〕	66.0	→ 36.0	48 以下

最も悪化が顕著な指標

1 日当たりの平均カリウム摂取量	3.0 g	→ 2.2 g	3.5 g 以上
* 血圧の改善を期待するカリウムは、野菜・果物摂取量の減少等により悪化した。			

◀がん分野 38 指標▶

16 指標 (42.1%) が改善、10 指標 (26.3%) が悪化し、十分な改善がみられない分野となりました。壮年期のがん死亡率を評価する「50～54 歳男性の年齢階級別死亡率」は目標達成しました。がん検診は、検診の部位により受診率に差がみられました。

最も達成度の高かった指標	目標設定時	直近値	目標値
50～54 歳の年齢階級別死亡率—男性〔人口 10 万対〕	159.4	→ 119.1	135 以下

最も悪化が顕著な指標

50～54 歳の年齢階級別罹患率—女性〔人口 10 万対〕	295.9	→ 409.4	266 以下
* がん登録制度の向上したことも悪化の一つの要因となった。			

◀健やか親子分野 35 指標▶

30 指標 (85.7%) が改善、2 指標 (5.7%) が悪化し、改善が進んだ分野となりました。

4 割の指標で目標を達成し、全体的に改善が進んだが、子どもの虐待予防や心の問題など課題も残りました。

最も達成度の高かった指標	目標設定時	直近値	目標値
乳児の SIDS 死亡率の減少〔人口 10 万対〕	32.7	→ 5.8	16.4 以下

最も悪化が顕著な指標

自殺者率—15～19 歳〔人口 10 万対〕	5.7	→ 6.9	2.9 以下
* 思春期のこころの健康問題は、成人期のこころの健康とともに悪化した。			